

平成 16年 3月期

## 第 3 四半期業績の概況 (連結)

平成 16年 1月 30日

上 場 会 社 名

杏 林 製 薬 株 式 有 限 公 司

(コード番号: 4560 東証第1部)

(URL <http://www.kyorin-pharm.co.jp/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 荻原 郁夫

責任者役職・氏名 取締役経理部長 宮下 征佑

(TEL (03) 3293 - 3420)

## 1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無

## 2. 平成 16年 3月期第 3 四半期業績の概況 (平成 15年 4月 1日 ~ 平成 15年 12月 31日)

## (1) 売上高 (百万円未満切捨て)

	百万円
平成 16年 3月期第 3 四半期	48,832
(参考) 平成 15年 3月期	68,618

(注) 四半期業績の情報開示は当事業年度より実施しておりますので、前年第 3 四半期の実績は記載しておりません。また、前年第 3 四半期との比較も行っておりません。

## [ 売上高に関する補足説明 ]

当第 3 四半期におけるわが国経済は、企業収益の改善や設備投資の増加など緩やかな景気回復傾向が見られたものの、引き続き先行き不透明な厳しい経済環境下にあります。医薬品業界におきましても、平成 15 年 4 月に実施された健康保険法改正による被用者本人負担の引き上げに伴う受診抑制や平成 16 年 4 月に予定される薬価改定など、国内市場の拡大は期待できない状況です。

このような中、医薬品事業につきましては、主力製品のムコダイン、キプレス、ペンタサなどを中心に売上拡大に努めました。また、ガチフロについては今年度上期は安全性情報の徹底を図り、今下期からは抗菌剤の需要期に向けた売上挽回に努めましたが依然厳しい状況が続いております。この結果、第 3 四半期は売上高 48 億 832 百万円となり、見込みに対して概ね順調に推移いたしました。

## (2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当事項はありません。

## (参考 1) 四半期個別業績の概況 (平成 15年 4月 1日 ~ 平成 15年 12月 31日)

	百万円
平成 16年 3月期第 3 四半期	47,721
(参考) 平成 15年 3月期	67,293

(注) 四半期業績の情報開示は当事業年度より実施しておりますので、前年第 3 四半期の実績は記載しておりません。また、前年第 3 四半期との比較も行っておりません。

## 3. 平成 16年 3月期の連結業績予想 (平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	65,300	9,100	8,000	93 76

## [ 業績予想に関する定性的情報等 ]

第 3 四半期は、ほぼ計画に沿った業績で推移しており、前回公表の通期の業績予想につきましては変更ございません。

## (参考 2) 平成 16年 3月期の個別業績予想 (平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	63,900	8,900	7,800	91 43

なお、野木工場の閉鎖(平成 18年 3月予定)に伴い、当期に割増退職金の発生が見込まれますが、連結・単体とも当業績予想には取り込んでおりません。

上記の予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上

2004年3月期 第3四半期 補足資料

2004年1月30日  
杏林製薬株式会社

< 単体売上高について >

(単位：百万円)

	今期(04.3期)		第3四半期(4~12月)
	中間実績	通期見込み	実績
売上高	30,137	63,900	47,721
国内医療用	24,670	53,300	39,362
海外医療用	3,672	6,500	5,576
その他	1,794	4,100	2,783

当社では2004年3月期より四半期業績の状況を開示いたしておりますので、第3四半期の売上見込み、前年同期の売上高は開示いたしておりません。

< 単体主要製品の売上高について >

(単位：億円)

	製品名	今期(04.3期)		第3四半期(4~12月)
		中間実績	通期見込み	実績
国内	ムコダイン (気道粘液調整・正常化剤)	78	177	132
	キプレス (LT受容体拮抗剤・気管支喘息治療剤)	43	94	73
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害改善剤)	35	69	54
	ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	30	59	46
	アブレース (胃炎・胃潰瘍治療剤)	15	28	23
	ロカルトロール (活性型ビタミンD3製剤)	14	27	21
	バクシダ-ル (広範囲経口抗菌剤)	4	9	7
	ガチフロ(自社販売) (広範囲合成抗菌薬)	6	30	12
	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	14	29	21
海外	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	30	55	45
	ノルフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	6	8	8

ガチフロキサシン・ノルフロキサシンは、それぞれライセンサー向けのバルク売上とともに、ライセンサーの販売に応じたランニングロイヤルティを含んだ売上を計上いたしております。

< 開発品目の進捗について >

開発段階	製品名・開発コード	薬効	備考
申請 (02年2月)	N - 3389 (錠)	制吐剤	日清キョーリン製薬が単独で申請 日清製粉グループ 日清ファルマと共同開発
Ph	KRP - 197 (錠)	尿失禁治療剤	海外：英国においてPh 終了(CRO活用) 国内：小野薬品工業と共同開発・販売
Ph	ペキロン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	マルホと共同開発
Ph	モンテルカスト	気管支喘息 治療剤	剤形追加：小児(1~5歳)用の新規剤形 用法・用量の変更 万有製薬と共同開発
Ph	ガチフロ注	合成抗菌剤	剤形追加
Ph	N - 5984 (錠)	糖尿病治療剤 抗肥満剤	日清製粉グループ 日清ファルマと共同開発
Ph	KRP - 101	高脂血症治療剤	海外：英国においてPh 開始(4月)

< 第3四半期におけるパイプラインの変更ポイント >

KRP - 297は、海外においては導出先の米国メルク社がPh の開発ステージに、日本国内では当社が開発を進めPh の開発ステージにありましたが、メルク社が実施したマウスを用いたがん原性試験において腫瘍性病変が認められ、国内外とも開発を中止いたしました。